



症状別配慮集 (安全配慮面)

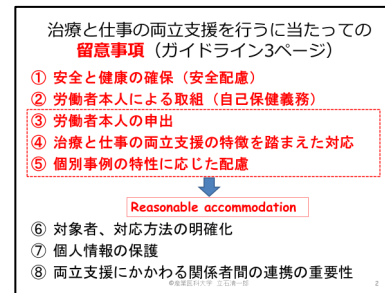
産業医科大学 立石 清一郎



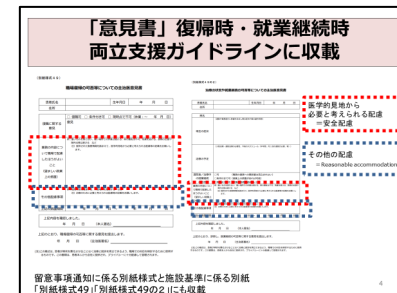
就業上の措置の分類

安全配慮≡『医学的』に禁忌

- ①仕事をさせると持病が悪化する
- ②事故・災害リスクがある



1.2 留意事項



1.4 両立支援の流れ

Reasonable Accommodation

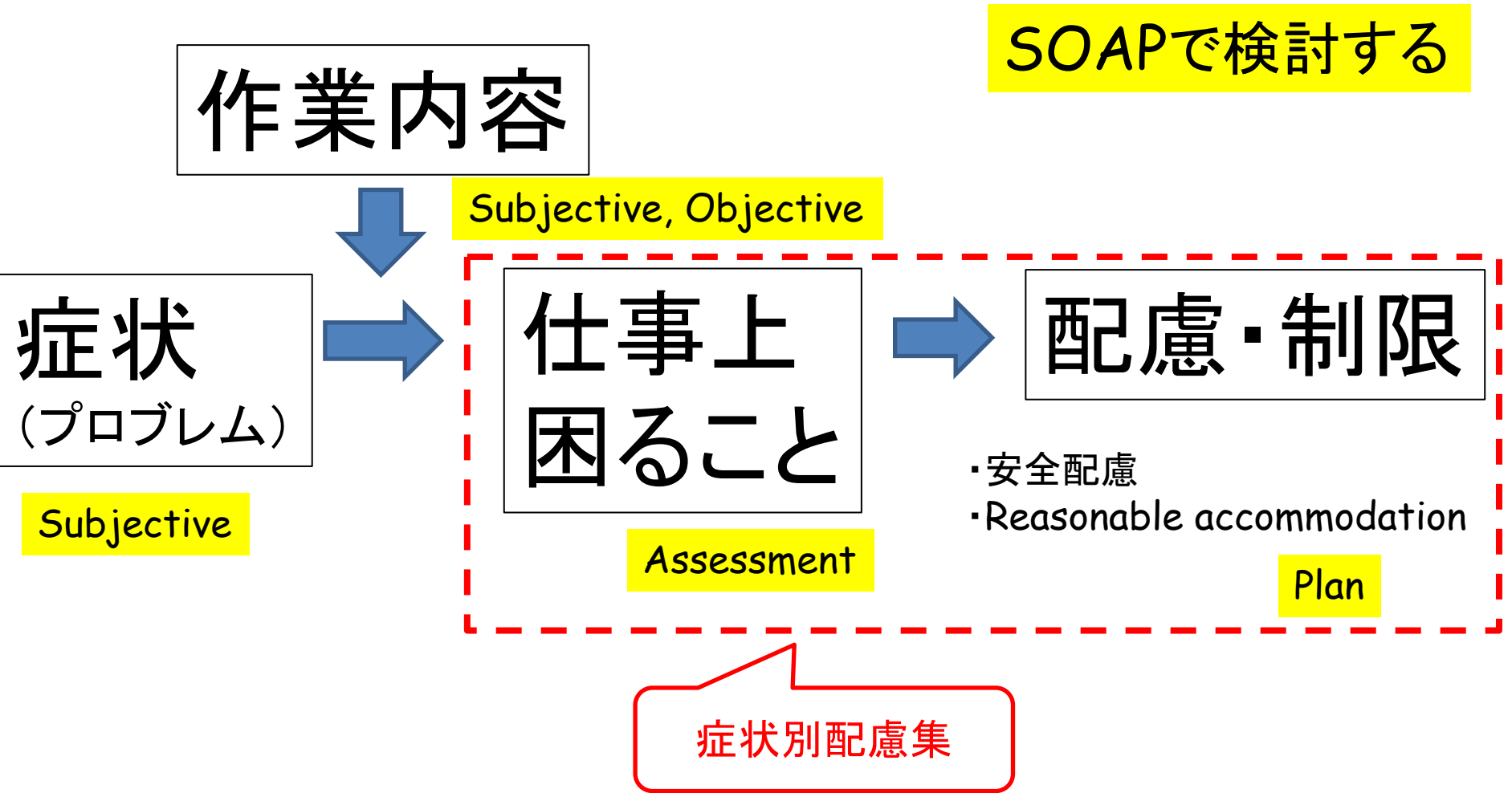
働くための環境や仕組みを整理すれば無理なく働ける

要求業務の大幅な変更（障害が残る場合の対応）

仕事をする上で調整不可能な能力の欠損がある

藤野ら. 産業医が実施する就業措置の文脈に関する質的調査.
産業衛生学雑誌 2012; 54 (6): 267-275を著者改変

安全配慮やReasonable accommodationに対する対応モデル



				②															事故などの可能性がある作業 (配慮の類型2)
				身体上の負荷がある作業（配慮の類型1）															
ICD10大項目	ICD10小項目	症状	個別症状の就労への影響	参考資料	立位作業	重筋作業	暑熱作業	寒冷作業	粉じん作業	呼吸用保護具	感染リスク作業	心肺負荷作業	肝毒性作業	腎毒性作業	ひとり作業	高所作業	・自動車の運転	危険な機械操作	
循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候	①	不整脈 ペースメーカーの植え込み	不整脈による意識消失発作により事故などを引き起こすことがある。また、心負荷により不整脈が悪化するリスクについても把握しておく必要がある。ほかの人の目が届かないところで意識消失が起こることに注意が必要である。	日本循環器学会 / 日本不整脈心電学会合同ガイドライン 不整脈非薬物治療ガイドライン（2018年改訂版）								✓				✓	✓	✓	
	R060 —	呼吸困難（呼吸苦） 呼吸機能障害	心肺に負荷がかかる状況に注意が必要である。また、マスク着用による呼吸器への負担にも着目する必要がある。感染により呼吸機能が悪化する可能性もあるので注意が必要である。			✓		✓	✓		✓	✓	✓						
	I50	息切れ（心機能障害） 心不全	循環動態に影響を及ぼすような作業として重筋作業・暑熱・寒冷作業などに注意が必要である。また、呼吸機能が悪化すると心負荷も悪化するので粉じん作業は呼吸用保護具の使用には注意が必要である。心機能の程度にもよるが、感染リスクのある作業は心不全を助長することもある。	2021年改訂版 心血管疾患におけるリハビリテーションに関する ガイドライン https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2021/03/JCS2021_Makita.pdf			✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓					
消化器系及び腹部に関する症状及び徴候	R15	排便回数の増加	排便回数が増加することについては、通勤中・勤務中ともコントロールできない状況が発生するためトイレに行きやすい環境を整備することが重要である。多くの障壁（バリア）は通勤時間や作業中の退出禁止などのルールの問題であることが多く、解決するためには事業場の理解や合意が必要である。																
	R17 —	黄疸（肝性脳症） 肝臓機能障害	化学物質の中には肝毒性のある化学物質（多くは塩素系有機溶剤）があるので工場などで勤務しているものについては注意が必要である。また、重症黄疸の場合、肝性脳症などにより作業時の不安全行動が発生する可能性にも注意が必要である。										✓			✓			
皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候	R20	しびれ	多くの抗がん剤では手足のしびれが発生する。手のしびれは日常生活に支障が出るような場合（Grade2以上）においては、細かい作業、水仕事、手足に負担のかかる重量物作業などに影響が出ることがある。	がん薬物療法に伴う抹消神経障害マネジメントの手引き 2017年版／がんサポーターブケア学会															
神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候	R25	異常不随意運動	不随意運動により機械操作などに大きな影響が出る可能性について検討が必要である。													✓		✓	

①個別症状の特徴

個別的症状	解説	参考資料
排便回数の増加	排便回数が増加することについては、通勤中・勤務中ともコントロールできない状況が発生するためトイレに行きやすい環境を整備することが重要である。多くの障壁は通勤時間や作業中の退出禁止などのルールの問題であることが多く、解決するためには事業場の理解や合意が必要である。	
しびれ	多くの抗がん剤では手足のしびれが発生する。手のしびれは日常生活に支障が出るような場合（Grade2以上）においては、細かい作業、水仕事、手足に負担のかかる重量物作業などに影響が出ることがある。細かい作業などによる事故にも注意が必要。	がん薬物療法に伴う抹消神経障害マネジメントの手引き2017年版／がんサポーターブケア学会
認知機能障害 （注意力障害）	抗がん剤使用者などで認知機能（とくに注意力）が低下するような患者などが存在する。名前を呼びかけても気づかない、診察室に忘れ物をする、などの問題が発生しているときには注意力障害を疑い、高度な場合には精神科などの受診を促す	
気分障害 （適応障害含む）	身体疾患治療者の10%程度にうつを認めるとされている。意欲・興味の減退、食欲や睡眠の異常などが発生しているときに疑う。内服治療が始まった場合、日中の眠気が出る場合があり、その場合には危険な作業は段階的に作業させるなどの注意が必要である。	
倦怠感	特に、がん関係でよくみられる症状である。通常の倦怠感よりもかなり強いことが特徴的である。適宜休憩をとる、段階的な業務量の増加など本人ベースの環境・ルール調整が効果的である。	
易感染性	抗がん剤やステロイド製剤などで多く発生する。白血球数など医学的な判断のもとで感染しやすい状況を解除することが一般的な対応である。	
腹部術後	腹部の術創により3カ月程度疼痛が残る。早期のころは力を入れることで疼痛が悪化する傾向が強い。また、高所作業時に着用するハーネスなどは腹部への圧迫があり術創に影響を与える可能性があるので注意が必要である。	
ストーマ	定期的に内容物を処理する必要がある、オストメイト対応トイレの設置などが必要となる。ストーマの取り扱いに慣れるまでの期間が必要となる。	がん情報サービス、大腸がん手術後のストーマケア https://ganjoho.jp/public/support/hint/pdf/stoma_care.pdf



②症状ごとに必要な安全配慮

症状	身体上の負荷がある作業（配慮の類型 1）											事故などの可能性 がある作業 （配慮の類型 2）		
	立位作業	重筋作業	暑熱作業	低温作業	粉じん作業	振動作業	化学物質	病原体感染 のある作業	心肺負荷作業	肝毒性作業	腎毒性作業	一人作業	高所作業	危険な機械操作 ・自動車運転
排便回数の増加														
しびれ														✓
認知機能障害（注意力障害）												✓	✓	✓
気分障害（適応障害含む）												✓	✓	✓
倦怠感														
易感染性								✓						
腹部術直後		✓										✓		
ストーマ														



このコンテンツは、厚生労働科学研究費補助金（労働安全衛生総合研究事業）
「医療機関における治療と仕事の両立支援の推進に資する研究（20J A0601）」
研究代表者 産業医科大学 立石清一郎 により作成されました。

